

# 夏合宿 サ・グリーンズ

1年 野中隆昭

まずは、我班のメンバー紹介

班長 三浦さん (3年)

会計 葉山さん (2年)

宇佐見さん (1年)

記録 野中 (1年)

以上のようなメンバーである。

。7月25日(土)27日(日)

三浦さんを除く3人は、部室から上野へ出発、我が班乗る十和田1号の終車名時間程前に到着。序を確保するべく並ぶ。終車3分前に列車が入線、三浦さんがまだ来ない。3人は、ホームを待たず。三浦さんより来たり。発車3分前、まだ現われず。3人はあきらめ、列車に乗込め列車を探すと、夕ラップに見覚えのある輸行袋が置いてある。そして、あの独特の笑顔をした三浦さんがいた。たい、この合宿は無事に終わるか、心配に目。た。

話は変わるが、この十和田は、急行であるが、特急車輛を使用してあり、スキーのための大型手荷物を置くスペースがあり、仲々良かった。

十和田—青函連絡線—二セコ—そして今はなき「からまつ」と乗り継ぎ、合宿の出発点「新得」に午前4:30に着いたのである。

それは日寒い朝であった。北海道の地に足を下した4人は、夏とは思えないほどの寒さにうちふるえたのであった。

駅前ロータリーでカップヌードルを作り、最初の目的地『紋別トムラウシ』目指して出発したのである。

尚？： いままでの文で、漢字のまちがいはまいくつでしょう。

しかし、このペースで書いていると何枚書いても足りる。ということだからからは、たびたのテープを録音することを録下さい。

。 7月28日

トムラウシ — 帯広 (中央公園)

7月29日

帯広 — 十勝川温泉 — 池田町

十勝川温泉は、日本では、たしつたけの植物性温泉で、湯の色が紅茶色であり、仲々良かった。

池田は、ワインで有名で町で、町管レストライン、まさばの家で、ステーキ、ワインが美味できる。ステーキは、まさばの家の方が安い(800円)

7月30日

池田 — 豊頃 — 愛牛

↳ 茂岩 — 帯広!

上の図を見てみるように、この日は全くすごい日だった。予備では、愛牛から川を渡り、茂岩へ、そしてドゥカノ沼あたりでテニールほすた。そして、平野無事な一日が終るはずだったが、しかし、川は渡れず豊頃まで迷戻り。これは、許さる。尤も悪夢のような事件が起きた。コースを変換した我々は、茂岩で、中食のつけめんを作っていた。突然、ピークが終った。初

日にも調子が悪くなる。たのだが、その時は、三浦さんが直したが、この日は遂に復活せず、泣く泣く、ピークを見送るため再び帯広へ。そして、宇佐見さん推せんの「何でもせろう、イトーヨーカ堂」で買う。災難は、まよまよ、てや。てきた。岩田の宿泊場所、帯広中央公園で、テニスパリ、食事のあとかたづけをしていた時のこと、我々は交番の死角となる身障者専用のトイレを便、ていた。すると、そこへ市職員風の人に来て、彼はすげなく我々を追い出したのである。我々はしかたなく、ナイトラコをして、大通り公園へ。

クーク

SFフックの方は御存じと思うが、ワークをした場合、外の景色を見ることができない。しかし、そこは、隣の機のこと、途中のことをかいつまんで紹介するせう。

7月31日、帯広—愛国駅—幸福駅  
—更別—忠類—野塚駅(無人)

8月1日 野塚<sup>黄金道路</sup>—百人茨—えりも  
—様似(海岸でキャンプ)

2日 様似—新冠キャンプ場(無料)

3日 新冠—ウトナイ湖Y.H.

4日 Y.H.—苫小牧—白老ポロト  
コタニ—湖畔キャンプ場

5日 キャンプ場—登別—クマ牧  
場、登別中学校跡地、

野塚では、三浦さんのスポークが2  
本折れていることが発覚。ここで三浦  
さんの得意技が出た。何と、駅の自転  
車置場の際車みたいなスポーツ車から  
スポークをもらい、自分の車につけた  
のである。この技は、以後、度々出た。

クマ牧場のクマは、時々芸があって  
おもしろい。下手目ストリップより絶  
対おもしろい。ネエ〜、立派?

前後するが、私は、黄金道路でパン  
クをしてしまった。しかし、パンクは  
この春旅中、この1回だけで、後は、

誰もやら百か、た。

8月6日 中学校跡—おちどきの滝—  
オロフレ峠—洞爺湖(湖畔で  
キニフ)

7日 洞爺湖—ニセコ—倶知安—  
—六郷駅(無人、既寝)

さて、当合宿で初めて地図に出ている峠を登る。上りは未舗装が多いが、下りは、ほとんどが舗装されており、軽快に下る。

また、洞爺湖では、ヘルスセンターおたのび所で温泉にしている。しかし、我輩はよく温泉にしているナ。~

7日は、ニセコで再び三浦さんのスポーツ靴折れている事が判明。しかも今度はフリー側である。倶知安の自転車屋に行くが、フリー抜きが無くアウト。終ったかと思、ていると、そこはさすが三浦さん。何と、民家の横に捨ててあるらしい。車から再び失敬して来た。他のろんはただあきれるばかり。横のスポーツに引、かける事で、どうにかフリー抜きを使わずに済み、出発

しかし、その後、三浦さんが自転車屋に寄った記憶はない。あのまま、走り続けたのだろうか？

8月8日 六郷—余市—ニッカウイス  
キー工場—余市海水浴場  
(キャンプ)

札幌老目の前ということで、前にもましての飛脚まよりの少なさ、観光に徹する。ニッカでは、ウイスキー、アップルワイン、シロップが飲み放題である。是非行くべし。

9日 余市駅<sup>バス</sup>—神威岬—余市駅  
—小樽—祝津(海水浴場、キャンプ)

さて、神威岬へ行くことは来まっていたが何で行こうかということで、協議の最終結果、当然のことながら—同一致?—でバスで行く。海が大変きれいで良かった。

10日 海水浴—札幌—サッポロビール園—円山公園

札幌まであと40km程ということである

前中は海永浴、多時頭には、札幌幌到着。  
円山公園に自転車置き、コイニラ  
ンドリーと銭湯へ行く。さ。げりし  
たところ、ビール園へ出かける。  
えらい混み様で長所間、待たされる。  
税込みで¥2750払いビール飲み放題  
ジニギスカニ倉へ放題のコースへ。  
2時間一本勝負のはじまり。各者一  
斉にスタートするが、早くも宇佐見  
さんが落。こち、三者デッドヒート  
の中、野中、葉山の2人が半馬  
身リード。ビールジョッキ杯目  
で野中号急にペースが落ち肉を見る  
の、いや口。てくる。それでも葉  
山号は、早くもくと食へ、そして飲んで  
いる。野中号最後の力を振り絞り追  
い込む。杯目で力尽きる。結局、  
一馬身差で、一位葉山さん、二位僕  
三位三浦さん、四位宇佐見さん。四  
人は、各人それなりに満足し、地下  
鉄に乗り込み円山公園に向かうので  
ある。

THE END



以上が、我班の行動である。

○備考

全走行キロ	860 km
キャンプ	11回 (2749)
Y. H.	1泊 (42500)
既寝	2回
プロ寝	1回 (川山公園)
トライル	パンク1回 (野中) スポーク折れ (三浦)

さて、初めての夏合宿であったが、はじめのうち、公園などでキャンプしたり既寝したりするのが非常にはずかしかった。しかし、終りの前では、昼に飯前で崖をトラニーを斬って食んでいるのだからおもしろい。

僅か北越道に来たのは、はじめてであった。とにかく、走れと走れと真直ぐな道には驚いた。しかし、そういう道を、さんざんと輝く太陽の下、暑い風をうけながら走るのは、何とも言えぬ壮快感であった。

今回は4人班であったが、この位の人数が、1人当りの共通装備の量も適当で、また、念馬の晴もあらそいか起さずに良いので可なりかろうか。  
とにかく、天候に恵まれ（雨は霧雨か平日）すばらしい合宿であった。

